

# 親しまれ、信頼され 必要とされる病院であるために

岡山県・備前市立吉永病院 看護部長 平山由香

## はじめに

備前市は平成17年3月22日に旧備前市、日生町および吉永町が新設合併し、備前市（図1）として誕生し

た。岡山県の南東部に位置し、南部に瀬戸内海国立公園の日生諸島、西部に岡山県三大河川の一つ吉井川、東部は兵庫県と接し、総面積の約80%を山林が占める豊かな自然環境に恵まれた地域である（図2）。総人口は3万6,211人、高齢化率36.0%（平成28年3月末現

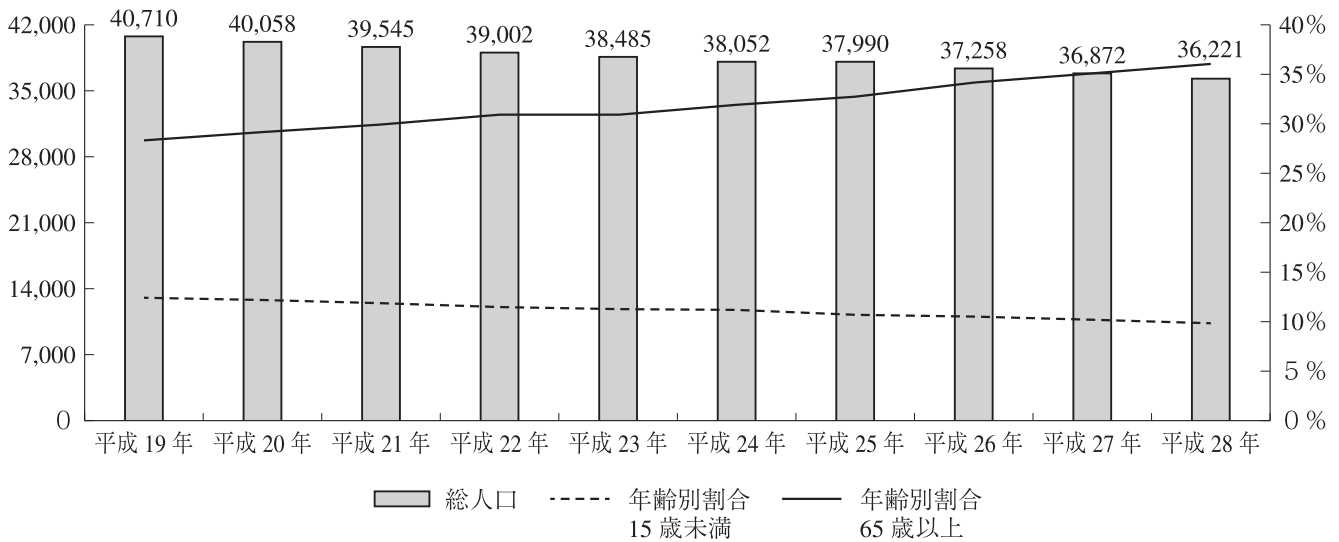
図2 岡山県内における備前市の位置関係



図1 現在の備前市



図3 備前市の総人口・年齢別割合のグラフ



在)であり、少子高齢化が進んでいる(図3)。吉永病院のある旧吉永町は、備前市の北部に位置し、人口4,619人(平成28年度末現在)の中山間地域の町である。山陽本線の沿線にあり、病院の対象人口は1万4,000人と推測される。

当院は国保直診の理念である「この住み慣れた町で快適に長く暮らし続けてよかったと言われる町づくり」を目指す地域包括ケアを早くから啓発、実践してきた。リハビリテーションスタッフを充実させ、在宅医療の推進はもとより、市と連携し介護予防事業も行っている。病院に隣接した吉永総合保健施設内に備前市介護福祉課、地域包括支援センター北サブセンターがあり、公的機関として地域住民の方々の健康管理を行い、健康教室などを開き、市と地域住民をつなぐ開かれた病院を目指している。病院では通所リハビリテーション、訪問診療、訪問リハビリ、みなし訪問看護など在宅医療を積極的に展開している。小規模病院ながら地域連携室を有し、MSW1名と看護師1名で多職種との連携を行っている。2025年に向け、地域の方々がどのような健康状態でもその人らしく暮らしていける社会を構築していくなかで、市立吉永病院看護部としてのこれまでを振り返り、現状を今後の課題とともに紹介する。



写真 病院外観

## 病院の概要

昭和31年に病床3床の国保直診として開設、昭和38年、26床に増床され吉永町立病院となった。昭和54年に40床に増床、昭和63年に50床に増床となる。平成6年に人工透析室を増築し人工透析を開始、平成10年にデイケアを開設した。平成17年市町村合併に伴い、備前市立吉永病院となった。その後、平成18年に新築移転し現在に至っている(写真)。へき地診療も行っており、2つの附属診療所(神根診療所、三国診療所)へ当院と岡山赤十字病院から医師と看護師を派遣している(表1)。

表1 当院の概要

診察科目	内科・外科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・神経内科・呼吸器外科・消化器外科・心臓血管外科・脳神経外科・整形外科・精神科・小児科・泌尿器科・婦人科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科
病床数	一般病床数 50 床
入院基本料	一般入院基本料 10：1
平均在院日数	17 日
病床稼働率	90.4%
精密検診認定	胃癌・大腸癌・肺癌
併設施設	通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所地域包括支援センター北サブセンター・神根診療所・三国診療所・院内保育所さくら

近隣の特別養護老人ホーム（50床）3施設、養護老人ホーム1施設、小規模多機能老人施設1施設の協力病院となっている。このほかグループホーム、有料老人ホームなどの訪問診療を行っている。

## 各部門の現状について

病棟は急性期50床、10：1の看護体制をとっている。勤務は3交代制で3人夜勤体制（1人は外来対応）、平成28年度の平均在院日数17日、病床稼働率90.4%であった。旧吉永町では唯一の入院施設を持つ病院であったため、混合病棟であり内科疾患、脳血管疾患はもとより、平成28年度の手術件数は外科72件、整形外科127件、泌尿器科24件、PEG増設14件であった。また、近隣の特別養護老人ホーム3施設、養護老人ホーム1施設の協力病院として、入院の必要な患者は可能な限り受け入れている。

NSTカンファレンスとリハビリカンファレンスを毎週1回行い、入院早期から退院に向けて必要な支援が適切に行えるよう多職種で情報を共有し、目標設定を行っている。

外来は土曜日も午前中は通常診療を行っている。1日平均320人、常勤医師に加え岡山大学病院や総合病院から専門医師の派遣が毎日あり、標榜科は19科とな

表2 看護部の理念

健康のあらゆるレベルにある対象者すべての人格・権利・生活を尊重し、温かい思いやりをもち、自らの治癒力を最大限に引き出し社会生活が行えるように支援する。

自ら改革する意欲を持ち続けることが使命であり、市立吉永病院が地域の誇れる財産として、看護師も一人一人が健全な病院経営に関心を持って活動する。

っている。平日は19：30、土曜日・日曜日・祝祭日は18：30まで診察に対応している。

救急車搬入件数も年間約350件あり、在宅医療だけでなく救急医療も担っている。週1回荻野管理者と外来看護師、社会福祉士で在宅患者の訪問診療を行っている（月平均62人）。人間ドックや特定健診も積極的に行い、平成29年度より備前市だけでなく隣接する和気町からも受け入れる予定である。

## 看護部としての人材育成

看護部の理念は「健康のあらゆるレベルにある対象者すべての人格・権利・生活を尊重し、温かい思いやりをもち、自らの治癒力を最大限に引き出し社会生活が行えるように支援する。自ら改革する意欲を持ち続けることが使命であり、市立吉永病院が地域の誇れる財産として、看護師も一人一人が健全な病院経営に関心を持って活動する。」である（表3）。

看護部では目標管理シートを用いて目標管理を行っている。各師長が4月に期首面談、7月、10月に中間面談で組織目標と個人目標を連鎖し、具体的なアドバイスを行い、年度末の期末面談で評価している。多忙な業務の中での目標達成や成果獲得は大変ではあるが、個々のモチベーションアップとコミュニケーション能力の向上につながっていると思われる。

中山間地域での慢性的な看護師不足は続いている。備前市では「備前市看護学生等就学資金貸与事業」を実施している。平成28年度この事業で2名が就職した。

「新人看護職員研修ガイドライン」に基づき、当院における研修計画を立案し、プリセプターシップ体制をとっている。当院で不十分な研修は、東備西播定住自立圏で連携しており、隣接する兵庫県赤穂市の赤穂市民病院の新人看護職員入職時研修に必要な項目ごとに参加する等して、新人教育体制の確立を図っている。

## 今後の課題

2025年に向けて変化する医療体制に対応すべく「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」が公表された。地域包括ケアの担い手として必要とされる看護職を目指し、看護実践の向上に向け当院でも新たにJNAラダーを指標として導入する方向性を決定し、ワーキンググループを結成し、取り組みを開始している。

超高齢化社会に伴い、認知症患者の割合は増加し続けていくと予測されている。急性期病棟においても認知症患者への対応は大きな課題となっている。研修会に参加した看護師を中心に多職種で連携し、認知症患者を一人の人間としてとらえ、その方の尊厳を守る看護が実践できることを目指している。

備前市には合併により当院、備前病院、日生病院と

3つの国保直診病院がある。平成27年に荻野先生が病院事業管理者となり、人事交流や定期的な幹部会議が積極的に行われるようになってきている。看護部門としても以前より顔の見える関係を構築できている。今後は、それぞれの病院の特性を生かしながら、専門職としての勤務評定項目や教育計画、クリニカルラダーなどの連携を強化していく必要がある。

## おわりに

超高齢化社会を迎え、世帯の家族構成や地域社会の関係も変化し、病院完結型の医療から地域包括ケアシステムへの移行という時代に伴い、市町村単位で地域の実情に応じた施策が展開されている。当院でも地域包括ケア病床の導入を目指している。ケアミックスの病院として、適切な医療サービスが提供できるようにしたい。

今後も当院が地域住民から「親しまれ、信頼され、必要とされる病院」であるために、看護部としては看護の質を向上し、チーム医療のキーパーソンとして医療の視点だけでなく、社会で生きていく生活の視点を持って患者をみる看護師の育成に努めていきたい。